

Where the sea and the sky meet



水天一碧株式会社 (Suiten Ippeki Co.,Ltd)
Portfolio

| Introduction

はじまりは、ひとつではなく
いくつもの問いが重なり合うところからでした。

違いは、越えるものなのか。なくすものなのか。
理解するものなのか。受け入れるものなのか。
あるいは、そもそも何かを“する”対象なのだろうか。

日常のなかには、目には見えないけれど
確かに存在しているいくつもの線があります。

立場や肩書き、年齢、経験。
性別や国籍、育ってきた環境。
価値観や、当たり前だと思っていたこと。

それらはときに
人と人のあいだに静かな境界をつくれます。

けれど、ふとした瞬間に
その線がやわらかく滲んでいくことがあります。

一緒にボールを蹴ったとき。
同じテーブルを囲んで食事をしたとき。
同じ景色を見て、同じように息をのんだとき。

肩書きや役割ではなく
ただ「ここにいる人」として向き合えたとき。

わたしが作りたいのは、そんな時間です。

方法は問いません。
対話でも、表現でも、場づくりでもいい。

違いが、あるがままに風景になること。
海と空が、それぞれの深さを抱えながら
遠くでひとつの美しい碧い情景をつくる
水天一碧のように。

同じになるのではなく、違いを失うのでもなく
ただ、共に在るという在り方。

その瞬間を、この世界に少しずつ紡いでいきたいと
私は願っています。

水天一碧株式会社 CEO 代表取締役 / 大嶋 悠生

Profile



大嶋 悠生 Yuu Oshima

- 水天一碧株式会社 代表取締役
- 渋谷区観光協会観光フェロー
- 藍左師

社会の“狭間”に立ち

異なる世界のあいだを翻訳する人

企業・官公庁・教育機関を中心に

延べ4万人以上と関わってきています。

なでしこリーグ 女子サッカー選手引退(2014)

戸籍を男性に移行する中で直面したのは、トランスジェンダーであることを理由にした内定取り消しでした。

女子サッカー選手としてジェンダーにかかわらずお互いにリスペクトし合えることが当たり前の環境から一転、「社会にはこんな壁があるのか」と途方に暮れたあの痛みが、私のすべての原点です。

JobRainbow 第一号社員 セールスマネージャー兼研修講師として従事(2018年~)

日本初のダイバーシティ求人プラットフォームを運営するJobRainbow で社会的マイノリティとDEIB推進企業を繋ぐ。

多くの企業様に対して、LGBTQ+の多様性に関する研修講師を数多く経験しました。

「ミュータントウェーブ」メンバーとして活動(2022年~)

自分を愛せる世界の実現を目指し、SNSやメディア、学校等を通じてPOPなスタイルで多様な視点を発信。

LGBTQ+に留まらず「自分を知る」ことから始める多様性教育の本質的な必要性を確信しました。

水天一碧株式会社 設立(2025年~)

企業にとどまらず教育機関、官公庁等も含めた幅広い層に対し、主に「自分を知る」ことから始める多様性教育を通して、クライアント様の抱える課題と深く結びついた本質的な変容を支援するために設立。

| Vision

違いが、あるがままに風景になること。

海と空が、それぞれの深さを抱えながら遠くでひとつの美しい碧い情景をつくる水天一碧のように。

同じになるのではなく、違いを失うのでもなく

ただ、共に在るという在り方。

＊水天一碧(すいてんいっぺき)とは...

「水(海)と天(空)が溶け合い、ひとつの碧色に見える美しい情景」という意味を持ちます。

人と人、人と社会の間にある"見えない線引き"を滲ませ多様な個が輝きながら、響き合う世界を生み出していく。

そんな思いが込められています。

| Awareness 私がキャリアの中で気づいたこと

現代日本社会においてはLGBTQ+や多様性についての学びの機会が増えている一方で、
「誰かを理解する」前に、置き去りにされている何かがあると感じました。
それは、「自分自身を理解する」ことです。

＜従来の多様性教育に感じた違和感＞

- 多様性を「自分とは違う外側にあるもの（対応すべき対象）」として捉えがち。
- 知識や対応策を覚えることが目的化している。
- 知識は増えても、会話が生まれず関係性のこわばりが解けない。

＜私がキャリアの中で気づいたこと＞

自分とは違う外側にある
特別な誰かの話ではなく、
私たち一人ひとりの中にも
“多様性”はすでに存在している。

| Our Message



“わたし”という土を耕すことから、すべては変わる。

多様性を「誰かのこと」として語る前に、まずは自分自身と丁寧に向き合うこと。

自分の中にある「ふつう」や「当たり前」という無意識のルールに気づき、それを対話によってほぐしていく。

「知っている」から「活かせる」へ。

水天一碧は、組織と個人の内面から柔らかくなる体験を、次のアプローチで提供します。

| Our Service(1/3)



① 座学・対話型研修

対話を通じて、参加者一人ひとりが自分の価値観や思い込みと向き合い、人との違いに気づいていく。

知識より、気づき。

それが組織の関わり方を、内側から変えていきます。



② 体験型 藍染研修

藍染は、目で見るだけじゃない。触れる感触、染料の香り、仲間の声。気づけば、五感を超えたものに出会っている。誰かと比べる必要も、正解もない。その感覚を、体感する時間です。



③ オーダーメイド企画

トランスジェンダー男性として、元アスリートとして、また様々な狭間で生きてきた私の人生全ての経験を、NGなしで、丸ごと生かします。オリジナル企画を、一緒に生み出していきましょう。



| Our Service(2/3)



④ 監修・アドバイザー

イベントブースの監修、インクルーシブな場づくりへのアドバイス、配布物の添削など、幅広く対応します。一つの視点では見えなかったものが見えてくると、できることが広がります。



⑤ 執筆（コラム等）

社内イントラのコラムから対外的な発信まで。答えを書くのではなく、問いを届ける。テーマの企画から執筆まで一貫して担当します。「どう思うだろう」という問いへ、そっと誘う言葉を大切にしています。



⑥ 登壇/講演/メディア出演

イベント、式典、学校行事、メディア出演まで。ジェンダー、働き方、結婚、子育て、スポーツ、ライフスタイルなど、テーマや分野を問わずお応えします。あなたがまだ思いついていない視点が、きっとあります。



Our Service(3/3)



⑦ AI × 自分の美学をつくる研修

自分を語る一文を、つくる。
感覚、経験、葛藤、あなたの人生丸ごと。AIと仲間と対話しながら、自分の内側を丁寧に辿っていく。
見えづらかったあなたが、形になっていく。そんな「自美学」を一緒に探求します。



⑧ 体験型 サッカー×多様性研修

サッカーの経験も、運動の得意不得意も関係なく、誰でも参加できる。
体を動かしながら、自分の役割を担い、仲間と連動し、支え合うことを体感していく。元サッカー選手だからこそ伝えられる、サッカー理論と多様性の深いつながりがあります。



⑨ アート × 多様性 コラボレーション

- 藍染ノベルティグッズの制作
- 日本伝統の藍と左官を融合させた技法で、あらゆるものに新しい表情を与える藍左師（藍×左官のアーティスト）
- 企業の「らしさ」をアートで表現し、多様性として発信する 等



Uniqueness 弊社の独自性

	従来のDEI研修	水天一碧のサービス
目的(Goal)	LGBTQ+等マイノリティの 基礎知識と対応策を学ぶ	自分自身の在り方を見つめ直し、 自分と他者の関係性を育む
対象の捉え方(Target)	自分とは違う外側にある多様性	他者との違いに限らず、 自分の中にも存在している多様性
アプローチ(Approach)	知識を覚える、データで納得させる、 対応をマニュアル化すること	多様性に関する知識を身につけ、 対話を通して自分自身や他者について知ること
結果(Result)	腫れ物に触るような遠慮や 距離感が残る	多様性を自分の中にもあるものとして捉え、 行動変容のきっかけが生まれる

CASE01-1. 野村不動産ホールディングス様

座学・対話型研修

「当事者に会ったことある人？」の一言から、始まりました。

LGBTQ+について社内で議論を重ねていたけれど、
実際に当事者と会ったことがある人は誰もいなかったそうです。
そこから、アドバイザー、執筆、ブース監修、研修、登壇へと
関わりが広がっていった。一つの関わりが次を生み、
気づけば複数の形で一緒にしています。

約2年のお付き合いの中で、担当者から言われたことがあります。

「いつの間にか、当事者だということを忘れていました。」

言葉選びで気を使っていたことが、ナチュラルな関わりに変わっていた。」

それが、組織の中に変化が根づくということだと思っています。

私との出会い方は、社内でも人によって違います。

それぞれが違う私を知っていて、いろんな形で一緒にできる。

それがこの関わりの面白さです。



BLUE FRONT SHIBAURA完成イメージパース



CASE01-2. 野村不動産ホールディングス様 その他

研修・監修・アドバイザー・執筆・登壇など...
と複数の形で一緒にさせていただいております。
入口はどこでも構いません。
一つの関わりが次の関わりを生み、
気づけば組織の中に少しずつ変化が根づいていく。
それが、領域を横断して
アプローチすることの面白さだと思っています。

＜野村不動産ホールディングス様との取り組み＞

監修

東京レインボーパレードに出展するブースの監修を担当。BLUE FRONT SHIBAURA TOWER Sの各施設と、そこに集まる人それぞれが求めるものを、カラフルな紐で結びつけていく参加型のブース。
来場者が紐を張るたびに、虹が生まれていく。
企業の思いが誠実に届き、来場者の思いも受け取れる。そんな双方向の場づくりを一緒にしました。

執筆

社内イントラネット向けのコンテンツを企画・執筆。
テーマはDEI文脈でも、伝えたのは「一人の人間としての価値観」です。当事者の話として消費されるのではなく、この人をもっと知りたいと思ってもらえる読み物を通して一緒にしました。



アドバイザー

「BLUE FRONT SHIBAURA TOWER S」のLGBTQ+をテーマとするインクルーシブデザインワークショップにトランスジェンダー当事者としてリードユーザーの視点で参加。
誰もが自然に過ごせる場をつくるための対話を一緒にしました。

講演／イベント登壇

野村不動産ホールディングス株式会社／野村不動産株式会社主催「みんつなフェス2026」に登壇。
2,000人規模のサステナビリティイベントで、ダイバーシティを入口に、
自分を知り、相手を知り、違いを楽しむ。そんな気づきの時間をお届けしました。

CASE02. キリンホールディングス様

座学・対話型研修

全員で考えていきたい、その思いに応える形で実施

「違いを力に変える」をスローガンに掲げるキリングroupが
関心層と無関心層に分かれてしまうという、
多くの組織が抱える共通の課題に 正面から向き合いました。

全員で考えていきたい。その思いに応える形で、
「一人一人の自己理解からはじめる、DE&I研修」を実施しました。

参加後のアンケートでは、「満足・やや満足」が95.4%

「多様性についてもっと考えてみたい」72.7%

「自分がやりたい姿を考えるきっかけとなった」63.6%

という声が集まりました。

「会社として取り組みたいことが浮かんた」と答えた参加者が40.9%

自分を知ること、多様性が自分ごとになる。

みなさんの表情と、数字が物語ってくれました。



CASE03. モトローラ・ジャパン様

座学・対話型研修

組織の「リカバリー」のためのチームビルディング研修

「強いチームほど、オフシーズンが必要だ。」

スポーツの世界では当たり前のことが、組織の中では後回しにされやすい。

高い目標に向かって走り続けるプロ集団に立ち止まって

「自分たちのこと」を話す時間を設けました。

LGBTQ+やアンコンシャス・バイアスを切り口に、

自己開示と対話の場を設計。研修を通して、

組織の「リカバリー」の位置づけとなった時間でした。

担当者から、こんな声をいただきました。

「対話の土台ができ、組織にリカバリーの時間の必要性を実感しました。」

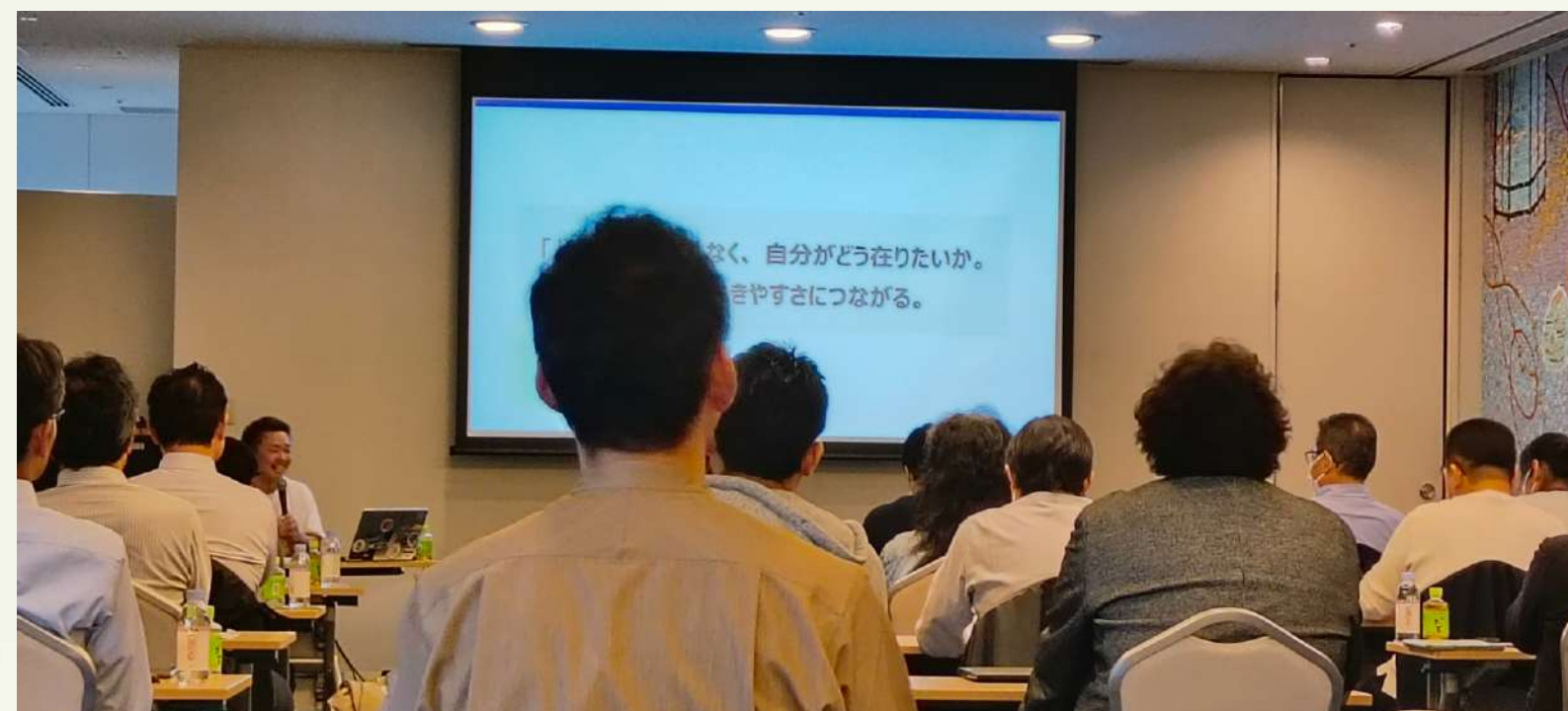
「『他人事』ではなく

『自分たち事』として、良くしていく空気が生まれました。」

壁を壊そうとするのではなく、その壁に気づくところから始まる。

本音の対話が生まれたとき 共通のゴールに向かうエネルギーと連帯感が、

自然と生まれていきます。



CASE04. 人事院(国家公務員)様

座学・対話型研修

「ジェンダー論がメインだと思っていた。」

21の各省庁から63名の国家公務員が集まった
DE&I研修で、そんな声が届きました。

実際に起きていたのは、
自分自身の価値観や無意識のルールへの気づきと
さまざまな背景を持つ人の立場を想像するための対話。

自分を知ることが、相手の背景を考える出発点になる。
国民の生活に関わる仕事をする方々が、
「自分ごと」として持ち帰ったものは
21の各省庁から静かに広がっていきます。
満足度100%の数字の裏に、
一人一人が真剣に向き合った時間がありました。



CASE05. 東京都東大和市立第五小学校様（教員向け研修）

座学・対話型研修

子どもたちと向き合う土台を、まず先生自身がつくるDE&I研修。

大人が変わると、子どもも変わる。

東京都教育委員会の人権尊重教育推進校に
2年間の研究をスタートさせる起点として呼んでいただきました。

子どもたちと向き合う土台を、まず先生自身がつくるために。
先生という存在は、生きる世界がまだ小さい子どもたちにとって
大きな影響力を持っています。

だからこそ、大人が学びや変化を止めずに、
柔軟でいることが大切なことだと感じています。



CASE06. 蒲郡市立塩津小学校様(講演会)

座学・対話型研修

違いをなくすのではなく、違いのまま共にいられる空間を。

「上から言われるのではなく、一緒に考える感じが良かった。」

外国にルーツをもつ子、発達的な支援が必要な子、集団生活が苦手な子。

違いをなくすのではなく、違いのまま共にいられる空間を

先生たちが丁寧につくってきた学校です。

そんな温かい土台がすでにある場所に、呼んでいただきました。

体育館での60分は、4・5・6年生合同。

性の多様性を入口に、アンコンシャスバイアスや自分のルール、お友達とのワークを重ねながら過ごしました。

その後は「にこにこルーム」へ。

学校に入りにくい子たちのための居場所で、

一緒に給食を食べながら価値観の語り合いもできました。

その後は、個別の相談で一人一人と向き合いました。

子どもたちからも「話をしっかり聞いてもらえてよかった」

「相談できてよかった」という声が届き安心しました。



CASE7. ホテルインディゴ東京渋谷様

藍染ワークショップ

伝統文化・ファッション・ダイバーシティの交錯

渋谷という街が持つ多様性と、日本の伝統文化「藍染」。
その二つが交わる場を、ホテルインディゴ東京渋谷とともにつくりました。

「伝統文化・ファッション・ダイバーシティの交錯」をコンセプトに
ホテル11階のテラスで開催した藍染ワークショップ。
藍が生み出す模様は、同じ工程でも二つと同じものではありません。

その偶然性と唯一性が、多様性を体で感じる入口になる。
研修でも講演でもない形での実現。
コンセプトと思いが重なれば、場所も、形も、想定外でいい。
これからも、そんな掛け合わせにチャレンジしていきます。



CASE08. 明星学園中学校様(特別授業)

オーダーメイド企画

生徒たちの声から生まれた、学校の特別授業。

「この人に会いたい！」

生徒たちの声から生まれた、学校の特別授業の企画に招かれました。

3月に行った教員向け研修をきっかけに、
先生たちが「ぜひ生徒にも」と動いてくれた流れで実現した授業です。
友達との対話を重ねながら、
自分と相手の新しい側面を発見していきました。

質疑応答では次々と手が挙がり

みんなの前で積極的に発言してくれた生徒たちの姿が印象的でした。

「多様性は自分の内側からできる、という考え方が
とてもすてきで 心に入れておきたいなと思いました。」(生徒)
担当の先生からも、こんな言葉をいただきました。

「たくさんの考える種をもらった7年生たち、
これからの生活でこれらがどう芽を出していくかが楽しみです。」



CASE09. 三輪田学園高等学校様 (2日間特別授業)

オーダーメイド企画

「知る」と「感じる」をつなぐ、2日間のプログラム。

1日目は、対話を通じて多様性を自分の中から発見していく時間。
その土台の上で迎えた2日目は藍染体験。

同じ布、同じ工程でも、まったく同じ模様にはなりません。

思い通りにならないこと、

予想しない色の広がりを楽しみながら

「違っていい」を体感してもらいました。

「思い通りじゃないことにも価値がある」

その感覚は、知識より長く残ります。

きっとこれからの人生のどこかで、ふと思い出す瞬間があるはずです。



CASE10. 公立小松大学様(特別講義)

オーダーメイド企画

「ユニバーサルツーリズム論」の特別講義

旅行は、誰にとっても自由なものだと思いませんか。

LGBTQ+ツーリズムをテーマに話しました。

当事者にとって、

旅行は気軽に「行きたい場所に行ける」ものではないことがあります。

同性カップルの宿泊、海外での法律や安全リスク、

渡航を避けざるを得ない国が数十ヶ所あるという現実。

当事者としての視点と具体的なデータを交えながらお伝えしました。

一方で、LGBTQ+フレンドリーな旅行文化も世界では広がっています。

LGBTQ+専門の旅行会社や、

インクルーシブな観光に取り組む企業の事例も紹介しながら、

観光業界が多様性とうどう向き合えるかを一緒に考えました。

「知識」と「当事者の声」と「業界の動き」三つを重ねることで、

多様性が自分の専門分野と地続きであることを

ツーリズムを学ぶ学生たちと一緒に考えた時間となりました。



Client

企業	野村不動産HD、麒麟HD、成田国際空港、ヤマハ発動機、東京海上日動、三菱ケミカル、ウエルシア薬局、DAZN Japan、Uber Japan、ELCジャパン、レノボ・ジャパン 他
官公庁・自治体	人事院、埼玉県庁、鎌倉市、流山市、尼崎市、中能登町、鯖江市、宜野座村 他
教育機関 (幼・小・中)	渋谷東しぜんの国こども園、新渡戸文化小、流山小、所沢並木小、尼崎水堂小、蒲郡塩津小、東大和第五小、明晴学園中、三輪田学園中 他
教育機関 (高・大・専門)	湘南学園、立教新座、日本体育大荏原、青山学院高等部、法政大中高、青山学院大、九州産業大、公立小松大、日本女子大、法政大、ZEN大 他
その他	立川市養護教諭研究会、目黒区立東山中PTA、京都経営者協会、倫理法人会、JC日本青年会議所、えひめプライド 他

| Inquiry

水天一碧株式会社
CEO 代表取締役
大嶋 悠生

Email: contact@suitenippeki.com

Website: <https://www.suitenippeki.com/>